

市指定文化財の修理（絵画）

# 「釈迦十六善神像」



しゃかじゅうろくぜんじんぞう  
釈迦十六善神像

## 釈迦十六善神像

釈迦十六善神像とは、大般若経が中国に伝来した由来を描いたものです。一般的には釈迦を中心に、その周囲に大般若経を守護する四天王と十二神将を合わせた十六善神が配置されています。また、大般若経を伝えたことされ、『西遊記』で有名な玄奘三蔵が描かれることもあります。釈迦十六善神像は中国唐の時代に成立し、日本では鎌倉時代以降に流布していき、無病息災などを願う大般若会の際に本

尊として掛けられました。その釈迦十六善神像が朽木古川の大通院でも大切に残され、市の文化財に指定されています。

大通院の釈迦十六善神像は高島市へ寄託され、現在は公益財団法人住友財団の助成を受けて、大津市の文化財修理専門業者が修理を行っています。修理は平成30年から3か年で行われており、ここではその文化財修理の途中経過をご紹介します。

## 修理のようす

大通院の釈迦十六善神像は鎌倉時代の制作と考えられ、経年による折損、亀裂、絵具の剥離、接合材の劣化が見られていました。このままでは絵画の価値が損なわれることから専門的な修理が行われることになりました。昨年度は、本格修理の下準備としての損傷状況の確認・表装の解体・汚れの除去・絵具の剥落止め等を行いました。



写真① 汚れの除去

写真①は、汚れを除去するようすで、濾過水を噴霧し、溶け出した汚れを下に敷いた吸水紙に吸着させています。写真②は、絵具の剥落止めのようすで、絵具の状態を顕微鏡や触診などで調べた後、接合の弱い箇所（膠（接着剤）を塗布して絵具の接着を高めています。紹介した他の工程



写真② 絵具の剥落止め

絹を欠損部分に補填し、色を足して補彩を施していくなどの修理に入っていきます。

においても損傷状況等を調べ、適切な補修材・修理方法を検討し、慎重に修理を進めています。今後は、本紙の材料である

## 文化財課

（25）8559

## 編集感

表紙で紹介した絶叫ブランコを私も体験してきました！青い琵琶湖に緑の田んぼ、さらにはメタセコイア並木まで一望できる最高の景色に気持ちが弾み、ブランコを漕ぐ足が止まりませんでした！他にも市内には、新たな観光スポットやカフェなど、市外から注目される場所が増えてきています。

この夏は手軽にサクッと市内を巡ってみてはいかがでしょうか。観光気分で巡ると、今まで気づかなかった高島の魅力を再発見でき、少し幸せな気持ちになれます♪おススメです♪(YH)



広報たかしま

令和元年

8

月号

No.235

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課

〒242-0156 滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎0740(25)8000(代)

http://www.city.takashima.lg.jp

✉t:info@city.takashima.lg.jp